

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 24 号
2013 (平成25) 年2月16日 (土)

幼児の柔らかい頭に脱帽！

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

今年の正月、池田町に住んでいる五歳になる女兒の孫が、親元を離れ我が家に一週間遊びに来てくれました。私は毎朝、般若心経を唱えます。孫も仏壇の前で手を合わせ私のお経を聞いています。

ある日、孫が突然私のまねをして「かんじざいぼさつ 観自在菩薩 ぎょうじんほんにゃはらみたまじ 行深般若波羅蜜多時 しょうけんごおんかいこう 照見五蘊皆空 どいつさいくやくしゃ 度一切苦厄 舍利子……」と。また、トイレに置いてあった私が作成した「塾生・保護者向け補助テキスト」・里仁第四の第一章、「しのたま 子曰わく、じんお 仁に里るを美と為す。えら 擇びて仁に處らずば、いづくち 焉んぞ知るを得ん。」をも殆ど間違わずに暗記したものをスラスラと言うのです。

私はビックリ仰天。何故、いつの間に。驚きと感動で暫し言葉も出ませんでした。

小さい子供の頭の柔らかさとでもいうのでしょうか。

恐らく、塾生である幼稚園児にしても何の違和感もなく、この難しい論語をスラスラと読んで短い章句はそれなりに暗記してしまうのでしょうか。

子供の潜在能力といましようか、呑み込みの早いのには、ただただ感嘆させられるばかりです。

日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は、五～六歳の頃、祖父から「論語」を学び、それが後にもものを考える力の基礎になったと言っています。

この「寺子屋・こども論語塾」は、一つは坐禅を通して釈迦の説く「慈悲の心」と孔子の教えの「仁の心」を共有することによって「他人を思いやる心」を育むことと、集中力を養うことをめざしています。

もう一つは、論語の素読を通して人としての生き方を追い求めつつ、親子が感動を共有し、より絆を深め、礼儀正しい積極的な人間への成長を願っていることは言うまでもありません。また、「ことば」の意味はわからなくても声に出して読むことで体に染み込ませていけば、年齢と共にどこかの時点で必ず生きてくることが期待できるので、塾生には漢文独特の音の響きとリズムを楽しみ続けてほしいと願わずにはいられません。

★ 塾生紹介 ★

成田 まゆみさん	<氏 名>	黒田 玉枝さん
主婦・添削指導員	<学校名・学年>	主婦
江戸文化について調べること	<好きな教科>	国語
パンを焼くこと・ウォーキング	<趣味>	旅行、読書
医師の日野原重明	<尊敬する人>	父(故人)母
抹茶とお菓子	<好きな食べ物>	お寿司
月一回、皆さんから元気ももらえるこの講座にとっても感謝しています。	<その他>	一ヶ月に一度、シャンと背筋を伸ばし声を出す機会を戴いたことに感謝しています。
一日約 7 kmウォーキングをして、地図上で日本一周を目指しているそうです。今迄に石川県からスタートし、秋田まで来たとのこと。ご当地の美味しい物を取り寄せ、大好きなお抹茶を点でて一緒に頂くのが何よりの楽しみだそうです。お孫さんと遠く離れて暮らしていることが、とても寂しそうです。日々の暮らしの中で、手間隙掛けることに拘って生きています。と言われたことが私の心に響きました。	<先生からのコメント>	読書が大好きで目下、源氏物語を再度、読んでいるそうです。日常生活では、余り細かいことを気にしないように心掛けているとのこと。また、旅行が好きで海外へ 3 回程、国内は娘さんと年に 2 回程するそうです。 ご両親の介護を長年され、辛いこともあったでしょうに、おくびにも出さないとこが凄いなと思いました。和服がとてもお似合いです。

※ 3月の塾生紹介は、堀田 美智子さん と 見澤 隆子さん を紹介します。